

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「無駄な廃棄減らす野菜保存袋」
- 2) 「自動車の電気普及へ一歩ずつ」
- 3) 「茶殻リサイクル」

---

**1) 「無駄な廃棄減らす野菜保存袋」**

食べ物を無駄に捨てる「食品ロス」問題への関心や、今夏の野菜価格高騰の影響が広がる中、野菜の鮮度を長持ちさせる専用の保存袋が注目されている。

「愛菜果（あいさいか）」（165円）/ニプロ

◎野菜から出るエチレングスを吸着する機能があり、野菜の鮮度を長持ちさせる。

「P-プラス」（3サイズ、472円）/住友ベークライト

◎目に見えない穴を袋に開けて野菜の呼吸を調整し、老化を遅らせる。ブロッコリーやカット野菜など青果 50 種類の業務用の包装にも使われている。

農林水産省の「平成 19 年度食品ロス統計調査」によると、家庭で無駄に捨てられる食品のうち最も多いのは野菜類で、43.2%。そのうち、ブロッコリーや小松菜などを含む「緑黄色野菜」について食品ロスとなった理由を見ると、鮮度落ちや腐敗などで使わず捨てる「直接廃棄」が約 1 割で、単身世帯では約 3 割になった。

どちらの保存袋も洗えば繰り返し使うことができる。上手に活用すれば野菜の無駄な廃棄を減らすことにもつながりそうだ。

秋になり、近頃はニュースなどで生産者が 1 年かけて育てた米に対する思いなどを聞くことも多く、食べ物をムダにすることへの罪悪感を感じる。

お得だと思ってまとめ買いしたものをダメにしたことがあるという人は結構いると思うが、こうしたグッズを使って、最後まで美味しく食べきりたい。

簡単に捨ててしまうことのないよう、こうした工夫が当たり前にならなければいけない。

---

**2) 「自動車の電気普及へ一歩ずつ」**

ニッポンレンタカーサービスは 9 月 19 日から、横浜駅東口営業所で富士重工業の電気自動車「スバル プラグイン ステラ」のレンタルを始めると発表した。大手レンタカー会社で初めての量産型国産電気自動車を使ったサービスだ。

当面は、平日は神奈川県庁が利用し、一般の利用は土・日曜と祝日のみとしている。3 時間 5250 円と少し割高ではあるが 1 日 2 組に貸し出す予定。

また、東京電力は今夏より築地市場にあるトラック待機場所に給電システム5基を設置し、配達トラックに電気の供給を始めた。

このシステムは、冷凍マグロを積んだトラックが市場への搬入を待つ間、保冷機能や冷暖房を使用するためのアイドリングをせずに待てるようにする狙い。経済産業省などと協力し、25台のトラックを対象に軽油使用量や騒音、CO2排出量をどのくらい減らせるかなどの実験も行っている。

日本のCO2削減目標が2020年までに25%と発表され、自動車業界の環境配慮にも拍車がかかりそうだ。電気などの他エネルギー源の普及でCO2を削減せざるをえない状況だけに、こういった実験が注目されている。さらには、流通全体に関わってきそうな問題だ。

「エコ」製品は従来品よりも価格が高いことが多く、このレンタカーについてもやはり割高になる。「エコカー減税・補助金」を見ても分かるように、利用者にしてみればエコよりも価格を重視する人がまだまだ多いと思うので、普及するまでは低価格で提供しなければいつまでたっても進まないような気もする。

---

### 3) 「茶殻リサイクル」

伊藤園が茶殻リサイクル事業を加速している。「お〜いお茶」製造後に排出される茶殻をリサイクルし世に送り出した製品は、約30種類に達している。

乾燥させるにはコストがかかるため、水分を含んだままでリサイクルする方法を模索し、製品の第1号として03年に生まれたのが、畳床に茶殻配合ボードを使った「さらり畳」だった。03年夏には抗菌効果のある「茶配合樹脂ペレット」を開発、樹脂化に成功したことで、ベンチやボールペン、日用品にまで適用製品の幅は大きく広がった。

伊藤園は、昨年5月から茶殻配合のリサイクル名刺を社員全員が持つようになったが、これを見たOAラベルなどのメーカー、エーワン（東京都千代田区）が「見るだけで環境にやさしいと分かる用紙がほしい」との要望があり、茶殻入り名刺を共同開発した。

伊藤園は02年にリサイクル製品専門の組織を特販部内に設け、エコ仲間の拡大に乗り出した。現時点でリサイクルしている茶殻の量は全体の5%未満、売上高も前年度で2500万円にすぎないが、今年度はこれを倍増させる計画だ。新製品をコンスタントに送り出し、茶殻リサイクルの早期の収益化を目指している。

リサイクルするためにコストをかけCO2を排出するとなっては本末転倒になる。

「リサイクルすること」が目的にならないように、リサイクルでかかったコストを製品に上乗せすることなく、なにより本当に環境のためのリサイクルが広がるよう、企業努力に期待する。